



「人はなぜ同じ失敗を繰り返すのか」

スイッチON！今年はカラ梅雨な感じですね。この新緑の匂いは大好きです。夏に向けてテンションが上がる！さて、頭の中を書くということは、アウトプットすることになる。そうすると良いインプットを求めることになる。多くの人に良い栄養になってもらいたいと願い、昔からネタ帳みたいなものをメモにいている。いつインプットしたメモか忘れたがぜひ、共有します。

「人はなぜ同じ失敗を繰り返すのか」

方法はたったひとつしかない。
それは失敗した原因を明確にして対策を提案すること。

当たり前の話なのだが当時の私はすっかり感心してしまった。
何故ならばそれがとても論理的な話だったからである。

失礼な話だが私は当時の上司を気合いと根性だけの人だと思っていた。
だから失敗したお客さんから仕事をもらうためには「一目散に駆けつけて謝る」くらいのことを言うのかと思っていたのだ。本当に失礼な話である。
だがそのおかげで私はこの助言をずっと大切にすることが出来た。
根性上司が教えてくれたたったひとつの論理的な方法だったからである。

以来、私はどんな時にも失敗の原因を分析するようになった。
そしてそのほとんどたったひとつの努力によってずいぶん仕事ができるようになったと思う。

仕事ができる人と仕事ができない人の違いはつまるところひとつしかない。
それは同じ失敗を繰り返すかどうかだ。

結果が出ない時には必ずプロセスに問題がある。
だからそのプロセスを組み直さない限り失敗は永遠に続くことになる。
反対にプロセスさえ組み替えれば結果はついてくる。
だが実際にそれをやる人はものすごく少ない。
いったい何故だろう。

人はなぜ同じ失敗を繰り返すのか。
私はその理由は3つある思う。

まずひとつ目の理由は、

本人が失敗していると思っていないこと。

自分は一生懸命やったけれども結果が出なかった。
それは運に恵まれなかったから。
商品に力がなかったから。
会社の知名度が低かったから。
そのように考えてしまう人はプロセスを振り返らない。

一生懸命に働く人ほどこういう傾向に陥りやすい。
これ以上どうやって頑張れというのか。そう考えてしまうのだらう。
もちろん頑張っていないわけではない。
ただ頑張り方を間違えているだけだ。

二つ目の理由は、
プロセスを振り返るスキルがないこと。

自分は何をやってきて、何をやってこなかったのか。
振り返りとはスケジュールを振り返ることではない。
スケジュールに秘められた意味を読み解くことだ。
なぜ自分はこのスケジュールで行動したのか。
その意味が分からないとプロセスを組み替えることが出来ない。

そして三つ目の理由、
それは実際に失敗していないからである。

失敗していないのなら変える必要がないではないか。
そう思われるかもしれない。
だが残念ながら社会はそんなに単純には出来ていない。
現実の社会は仕事ができる人と出来ない人に二極化されてるわけではないのだ。

現実の社会にはまったく仕事ができない人などいない。同様に完璧に仕事ができる人もいない。
そこにあるのは出来るレベルの違いだけだ。
だから仕事ができる人の上にはもっと仕事ができる人がいる。
もっと仕事ができる人の上にはもっともっと仕事ができる人がいる。
仕事ができることに上限はないのだ。

つまり私がいうところの失敗していない人というのは、
そこそこ仕事ができる人ということ。

そこそこ出来るのでプロセスを変える必要がない。
そう考えているからそれ以上仕事ができるようにはならないのだ。

失敗を認めることは難しい。
だが成功を捨てることはもっと難しい。
人は失敗ではなく
成功の体験によって未来を束縛されているのである。

社会福祉法人 千歳会
理事長 左 敬真

